

## 週日の説教

金トマス・アクィナス 神父 2010年1月30日(土)

(金 大烈・ザベリオ神父様の同時通訳にて)

### 《いつも見ているイエス様の眼差し》

こんばんは。今日の福音(マルコ4・35-41)の内容を黙想したいと思います。

イエス様が選ばれた12人の弟子たちのことをよく考えてみますと、なかなか一つになれない、仲間になれないタイプの人々でした。一言で言えば、12人の弟子たちは一致することが難しい人々でした。しかしその中にイエス様がいらっしゃったから、一つになれました。

今日の福音では、イエス様が弟子たちと一緒に舟に乗り、寝込まれましたね。その時、弟子たちはものすごく怖がりました。この舟は、教会を意味しています。教会も世の中のいろいろなことによって、揺れてしまう場合があります。それは「イエス様の不在」を感じさせます。「このような状況になるまで、なぜイエス様は何もしてくださらないのでしょうか。」「教会が全部崩れるところまできたのに、イエス様はどちらにいらっしゃるのでしょうか。」問いかけても、イエス様は答えてくださりません。しかし、私たちに聞こえる答えはしてくださなくても、イエス様はちゃんと私たちを見ていてくださいます。

12人の弟子たちは、数えきれないくらい多くのイエス様の奇跡を見てきました。死んだ人を生き返らせる奇跡さえ見ました。多くの病人や悪魔に取り付かれた人々を癒してくださる姿も見てきました。自然や光を叱ったり命令したりして、自然的なものさえ支配している姿も見てきました。それなのに、一緒に舟に乗り、その舟が波で揺れた時に、イエス様に対しての信頼感を失ったのです。よく考えてご覧なさい。そのように揺れている舟でイエス様が寝込むのはありえないことです。居眠りするくらいだったのでしょう。たぶん、弟子たちがどんな反応を見せるか、試すために黙っていらっしゃったのでしょう。そして弟子たちは、「助けてください」とイエス様を起こしましたね。「私たちが死にそうになっているのに、あなたはなぜこのように寝ていらっしゃるのですか。」と。イエス様はたぶんそのような弟子たちを見て、「信じて任せられるようになるまでには、何と先が長いだろう。」と思われたことでしょう。そして、「こんなにたくさんの出来事を見せてきたのに、なぜ私を信じないのか。」ともどかしい心でいっぱいになり、息苦しい気持ちになったのでしょう。結局イエス様は、起き上がって湖に向かいお叱りになりますね。「沈まれ。」という命令とともに凧になり、弟子たちは安心したことでしょう。

試練には、二つの種類があります。

一つは、神様が、私たちをもっと強め、私たちの信仰が大きくなるために許してくださる試練です。たとえば今日の福音の、弟子たちが迷い、怖がった出来事です。そのような状況に陥ったら、私たちに必要なことは、やはり信じることだけでしょう。「たとえ死の谷に行っても、たとえこの舟が沈んでも私たちが死んでしまっても、あなたを信じます。」という信仰が何よりも必要でしょう。「死んでもあなたは私を歩ませてくださる。主が許してくださった試練なのだから、きっといつか主が乗り越えさせてくださる。」と信じる必要があります。「ローマの信徒への手紙」8章28節にこのように書

かれています。「神様を愛する人々にはあらゆる難しさが働き、よい結果を結ぶようにしてくださいませ。」と。

このように、私たちがぶつかる試練の中には、私たちをもっと強くするために、信仰的に深くするために神様が許して下さる試練があります。

もう一つの種類の試練は、私たちの考えの足りなさによってぶつかる試練です。もう少し知恵があれば、もう少し分別力があれば、十分に避けられる試練です。人間は自分の間違いによってぶつかった試練でも神様のせいにする場合があります。自分が間違えて起こした試練なのにもかかわらず、神様に腹を立てるのです。そのときから悪魔の支配になります。どんな試練にぶつかっても、へりくだる心で「あなたにすべてのことを頼ります。委ねます。だから助けてください。」と祈る心があれば神様は必ず救ってくださいます。司祭もやはり弱い人間ですから、自分の考えの足りなさによって、試練にぶつかる場合があります。試練のほとんどは、神様が許して下さる試練ではなく私たちの足りなさでぶつかる試練です。

神様が許して下さった試練に出会う場合には、何よりも感謝の心が必要です。しかし、私たちの足りなさでぶつかる試練の場合には、何よりもまず悔い改める心が必要でしょう。

皆様、赤ちゃんを育てる時、何歳くらいになったら歩き始めますか？ 1歳くらいでしょうか？初めから上手に歩ける赤ちゃんはいませんね。韓国では、1歳の誕生日をととても盛大に祝います。そしてふつうは、1歳の誕生日には歩く姿を見せなければなりません。お祝いの餅を赤ちゃんの前のテーブルに置きます。そして赤ちゃんが歩いてその餅をとるようにさせます。しかし、中には上手に歩けない赤ちゃんもいます。転んでしまう場合もあるし、『這い這い』をする場合もあります。お母さんは、立ち上がった時から助けてあげることができます。最初に立ち上がった時には、後ろから服を優しくつかんで手伝います。お母さんが後ろにいるのを感じた赤ちゃんは、それまでとは全然違う歩き方でたくましく歩き始めます。けれどもお母さんが隠れてしまい、そばにいないことに気がつくともた倒れてしまいます。しかし隠れていてもお母さんの視線は、赤ちゃんが歩き始めるときから最後まで、ずっと赤ちゃんを見守っています。そして倒れそうになると、走り寄って赤ちゃんを助けます。信仰も同じではないかと思えます。神様はいつも私たちをご覧になっていて、倒れそうになるとつかんでくださいます。

お母さんは、いつかは赤ちゃんから手を離さなければならない時が来ます。歩く必要もあるし、走る時も来ます。しかしその時も、イエス様は全ての瞬間、私たちを見ていてくださいます。一人で歩まなければならない時、走らなければならない時、寂しさを感じることもあります。神様から見捨てられたのではないか、神様は私のことを全然気にしていないのではないか、と思うこともあります。しかし必ず覚えておいていただきたいのです。私たちがお母さんのお腹に命を受けた時からその命が終わる時まで、私たちは神様に対して知らん振りをするのがたくさんあっても、神様はずっと私たちを見守っていらっしゃいます。居眠りしているように見えても、イエス様は私たちを見ています。

大きな問題が起こり、悲しいことになっても、絶対怒りを見せないでください。使徒ペトロは、「そのような時に怒りを見せるのは、異邦人達の見せる生き方です。」と話しています。ご聖体をいただきながら生きている私たちは、いろいろな難しさにぶつかっても怒ってはいけません。怒りを出してはいけません。それは異邦人達が見せる姿です。

私たちは、心配することが祈りだと錯覚する場合があります。しかし、心配は絶対祈りではありません。心配だらけの心は悪魔の住まいになります。けれども、祈れば奇跡が起きます。イエス様がいらっしゃるのにもかかわらず私たちはいつも心配ばかりしています。しかし、祈りができればイエス様は必ず必要な力をくださいます。教会が揺れる時があります。私たちの家庭が揺れる時もあります。自分の魂が揺れる場合もあります。その時こそ、怒りを見せずに、心配に落ち込まずに、ロザリオを持って聖母マリア様に願ってください。何よりも毎日ご聖体をいただこうと努力してください。そのような生き方ができれば、揺れている船はノアの箱舟になると私は硬く信じています。

アーメン。ありがとうございました。